

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100552		
法人名	社会福祉法人 白富会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 ひまわり園		
所在地	熊本県熊本市東区長嶺東3丁目3-70番地		
自己評価作成日	平成29年1月12日	評価結果市町村受理日	平成29年3月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成29年1月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな住宅街の中に位置しており、周囲も気軽に散歩できる環境にあります。施設の近くには小学校もあり、児童の登下校時や運動場での活動時に子供たちの声が聞こえ、元気な声に入居者の笑顔もほころびます。明るく広いスペースで落ち着いた生活が出来ます。ご家族に対しても入居者お一人々のホームでの生活をブログにてお伝えしています。職員の元気が大切にしながら、入居者お一人々に楽しく目標のある生活が継続出来るように努め、笑顔でゆとりのあるケアを目指しています。また、認知症通所も共用空間で実施しており、在宅から来られるご利用者様との交流や、同法人が行っている保育園の園児達との交流等も行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

熊本地震により併設の有料ホームへの避難を余儀なくされたホームでは、これまでと同じ入居者と職員との生活がスタートできたことを喜びとして、“今”を見つめながら支援している。最高齢101歳という現状にもあっても独歩で自分の意思を持った生活や、認知症状の進行も見られる中でも職員個々が理念であるスマイルライフを規範として、笑顔でのケア姿勢や手作り脳トレ等家庭観を一層深めている。また、安全対策委員会で震災時対応やインフルエンザ対策、ヒヤリハットの検証等の他、様々な委員会活動の充実等高い意識を持ち、資格取得の推奨が認知症ケア専門士合格としてその成果が表れている。福祉避難所に指定されるよう手を挙げる意向であり、今後も地域福祉へ寄与されるであろうと大いに期待されるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/>	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/>	3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない			<input type="radio"/>	4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			<input type="radio"/>	2. 数日に1回程度
			3. たまにある			<input type="radio"/>	3. たまに
			4. ほとんどない			<input type="radio"/>	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/>	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/>	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない			<input type="radio"/>	4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/>	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/>	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない			<input type="radio"/>	4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない			<input type="radio"/>	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/>	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/>	3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない			<input type="radio"/>	4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が			<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/>	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/>	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない			<input type="radio"/>	4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	笑顔の絶えない施設づくりを基本に掲げ、「スマイルライフ」を職員理念に置き、運営理念を中心に日々取り組んでいます。	今年度は震災により一時休止していたが、11月に再スタートしたホームであり、開設時からの理念を確認し現在も継続している。困難な時期だからこそ、笑顔を持ってケアに努めることを申し合わせ、まずは自分の顔を確認して一日をスタートし、「スマイルライフ」を理念として、同じ入居者との生活が再スタートできたことを喜びとして“今”を見つめながら支援するホームである。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接する施設で、月1回行われる認知症カフェに参加をしています。その他では現在特にありません。	隣接のケアハウスで行う認知症カフェに参加し交流しているが、再開したばかりでありボランティアとの交流や演歌歌手の訪問等があるものの、地域との交流は今のところ少ないのが現状のようである。	震災により復旧工事にめどが付き次第、地域の方々との交流を検討いただきたい。運営推進会議を生かしながら交流促進に向けスタートされることを期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学やボランティア活動として施設に来られた方又は実習生に対し時間を取り、認知症ケアでの質問を受けその都度説明しています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	その都度での問題点等を会議の場で検討すると共に、より良い施設運営のアドバイスを受けています。	小規模多機能と合同で開催している運営推進会議は、グループホーム及び認知デイサービスの開催状況や防災及び他の福祉避難所について資料をもとにした意見交換を行っている。地域包括支援センターや民生委員、自治会長の他の施設職員の参加により、充実した会議が行われている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時常に連絡を行っています。	震災後、被災の手続きや休止、再開に向け行政からのアドバイスや協力を得ており、気軽に相談できる関係にある。事故報告等の書類の持ち届け時にも情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待について職員会議内で勉強会を行い、虐待防止や身体拘束に該当する行為の把握と拘束をしないケアについての認識を深めた。	拘束防止マニュアルを見直し、勉強内の中で、拘束に当たるかどうかや、言葉での封じ込め等事例を挙げて説明しており、全員が具体的な行為等正しく理解している。転倒骨折により、家族の要望でセンサーマットは利用しているが、入居者の徘徊も無く、落ち着いた生活ぶりである。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修に職員が参加し、その職員からの報告にて虐待防止についての認識を深めた。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議にて権利擁護に関する資料を使い、確認しました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、契約書、重要事項説明書、運営規定を読み合わせ、同意して頂いた後に記名と捺印を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見は箱を人通りの少ない場所に設置しており、記入して頂いた内容はスタッフに伝え、改善出来る様にしていると共に、直接希望を言われた場合は、対応できることは即対応しています。	意見箱の他、訪問時や運営推進会議を問題提起の場としてホーム運営に反映させている。家族からは「手伝いに来ましょうか」等の心強い言葉も聞かれ、話し相手に訪問される等協力的である。また、ホームのブログにより情報を発信されていることも家族に安心感を与えている。ホーム内外の苦情相談窓口を明示し、担当部署、担当者等家族に説明している。	家族会は無いが忘年会に家族も参加されている。今後も家族同士の交流の機会として家族が集まる機会が多くなることを期待したい。更に家族に忌憚りの無い意見や提案を上手く運営に生かされるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の職員会議にて、検討会や意見の収集を行っています。	代表より一任された管理者は職員とのコミュニケーションを図り、顔色や表情等も把握し、年度末には個別面談により部署異動等を検討している。毎月の職員会議の中で、計画した行事等の意見交換や物品、備品等職員と話し合いながら充実させている。委員会活動も充実し、今年度は認知症ケア専門士に新たに合格する等自己啓発にまい進するホームである。管理者のリーダーシップとともに、職員同士も意思疎通や風通しの良いことが意見や提案がうまくホーム運営に反映させる一因であると確認された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善交付金の申請をしており、業務実績を考慮しながら、配当金額の調整を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育委員を中心に定期的な勉強会を行うと共に、安全対策委員会にて、職員から出た日々のヒアリハットの検証を行い、同時にその職員に書面にてアドバイスをを行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会等の研修		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様一人ひとりの日々の生活パターンをつかみ、表情や行動、言動等の観察を行い、申し送りやカンファレンス等でスタッフ同士の情報交換を密にとり、ご利用者様に安心した対応が出来る様努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時には、生活状況、健康状態を伝え、必要な支援や相談を行っています。又遠方等で面会に来れないご家族様等には、電話連絡にて近況報告やケア対応の相談を行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や主治医との連携を密に行い、必要としている支援を見極め、対応出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に洗濯物を干したり、食事の準備や後片付けを行っています。時にはおやつ作りも一緒に行っています。又、ご利用者様の誕生日には、他のご利用者様と一緒にケーキを作っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族参加行事を企画し、一緒に活動できる機会を設けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様の兄弟の面会支援や、ブログを作成し、日頃の生活や行事参加の状況を発信しています。	初詣や毎月友人との外食を楽しみにされる方、家族との外出や「帰りたい」の思いに応え成年後見人と相談したケース等これまでの関係性の継続に努力している。日常生活はブログで発信しており、家族の訪問に繋げている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を理解し、難聴の方や意思疎通が困難な方に関し、テーブル席の位置を工夫するとともに、コミュニケーションの際にご利用者様の間に入り自然な交流が図れる様努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所先が施設や医療機関である場合には、施設での生活状況を含めた情報(フェイスシート・ケアプラン)の写しを渡しその後のケアの参考にして頂きます。又、退所に向けたその後のご家族からの相談を受け、退所後の受け入れ先を探したり情報提供を行いました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者や家族の意向を取り入れ、ケアプランの作成を行っています。状況次第では、その都度ご家族への連絡相談を行い対応しています。	アセスメントによる意向等の把握の他、食レクを通じ意向を把握したり、目が見えない方、意思疎通が困難等様々な状況に、くせや状態の把握や、表情・言動により思いを推察したり、何度も聞きなおしながら本人本位になるよう努めている。記録も本人の言葉(POS方式)とし、プラン作成に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様やご家族等との会話から、情報を得ようと努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、カンファレンス等を行い、その方自身の情報を各スタッフで共有する様にしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様の状況を把握し、必要なケアを立案しています。又、介護計画のモニタリングは、毎月実施しており、ご家族に相談が必要な内容がある場合は適宜相談し対応をお願いします。	本人・家族の意向をもとに、職員もケアプランをもとに項目ごとに実施状況や考察しケアに反映させている。毎月のモニタリング、定期的には3ヵ月毎・半年毎にプランを見直し、大きな変動時、特に退院後等家族と話し合い、現状に即したプランを作成している。担当制として、プランの評価や家族との連絡等を行うことで、職員の観察や気づきも反映されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各ご利用者様個別に日々の記録を行うと共に、簡素化した文章ではなく、ポイントが明確に分かりやすいPOS方式を取り入れています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限りご家族の急な申し出や受診対応等柔軟に行う様にしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のカットボランティアの方に定期的な訪問を受けながら、交流を含めた対応が出来る様おこなっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族とご利用者様とで病院受診される際には、必要に応じ、前もって情報提供書の作成を行い、直接電話での報告や受診時に持参して頂いています。	入居時にかかりつけ医の継続や協力医療機関による定期往診が可能であることを説明している。毎月家族の支援によりもとのかかりつけでの医療を継続の方や、協力医による往診等希望に応じており、入院時には紹介により適切な医療を支援している。ホームでもバイタルチェックにより日々健康管理を徹底している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常時、情報交換をしており看護職員が休みの時も必要な時は電話連絡にて指示を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は面会を行い、その際に担当Nsとの情報交換を行っています。退院の際には、入院先との情報交換や退院後の調整を行っています。また、入院時のはその都度、サマリーを作成し提出しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期への支援を見据え、ご家族と相談を行い、関係機関との調整や往診への協力を行っています。	重度化・終末期の希望があれば最大限の支援に努めたいとしており、担当者会議時に家族の意向を聞き取りしている。「ホームで出来ればお願いしたい」との意向に応え、訪問看護とのオンコールについての話し合いや職員会議で話し合いを繰り返し、看取りまで支援したケースもある。また、夜間帯の職員のストレス軽減に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間の事業計画に毎月の勉強会を決め、行っていますが、本年度は十分な勉強会が出来ませんでした。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練を行うように努めており、有料ホームからの応援体制を整えています。今後は、震災(地震や洪水)の訓練も取り入れて行きたいと思っています。	年に2回避難を中心に訓練を行っており、2階のホームではベランダに避難することとしており、今回の地震でも同様に行う等日頃の訓練の成果が表れている。地震では新設されたばかりの有料ホームに入居者と地域からも避難し、井戸水は地域に還元している。また、火元確認等日々のチェックを徹底している。今後、福祉避難所として指定してもう意向である。	今回の実体験が有事の際に生かされるものと思われる。防災委員による毎月のチェック等意識が高いホームであり、自然災害への対策として今後も机上訓練等による意識強化に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各スタッフはご利用者様がお元気な頃の仕事やその時の地位、立場等を把握しており、その方にあった言葉かけを行う様に対応しています。	職員は理念である“スマイルライフ”を実現するにあたり、笑顔を持ってケアすることとし、入居者一人ひとりに尊敬の念を持ち、苗字にさんづけとし、反応の無い方には家族からの情報を生かしている。守秘義務を順守し、個人情報洩れる事の無いよう徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各スタッフはご利用者様に日々対応する中で、本人の意向を確認しながら対応する様心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな日課はありますが、その時の気分や体調、ペースを尊重しながら支援を行っています。(特に、食事や入浴)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日一緒に着る服をコーディネートしています。又、外出の際の鏡台を出口付近に設置し活用して頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛付等を手伝って頂いたり、片付けの時には食器の拭きとりを一緒にやっています。	業者や職員の購入した食材をもとに職員が調理しており、料理を作る音や匂いが家庭観を醸し出している。入居者の状態(介助等)に応じたテーブル配置とし、輪番での検食を行なうとともに、他の職員も介助しながらの食事である。また、視野に入らないケアを望む入居者には一人での食事としたり、入居者の希望が反映した食レクは、出来る力や笑顔を引き出している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を確認しており、飲み物に関しては、ご本人の飲みたい物を聞いて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、入れ歯の方は週2回ポリドントに浸ける様にしています。磨き残しがある場合は介助にて対応し口腔内洗浄用のブラシ使用し対応。又、異常時の早期発見に努めており、必要な際は協力歯科へ対応を依頼しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各ご利用者毎の排尿チェック表を利用し、定時誘導以外にも、その方のパターンを把握し、状況に応じて誘導と付き添いを行っています。	排泄と水分量を記録に残し、習慣やパターンを把握している。手引き歩行でのトイレ誘導や、自立の方も見守り、尿意の申し出がない場合には定時誘導や様子を見ながら声掛け等を行っている。またリハビリパンツにパットや、夜間利用されるポータブルトイレでも誘導したり、夜間のみ紙おむつを使用されるなど個別に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	調理内容に野菜類を多く使用しています。又、水分摂取量の確認を行うとともに、おやつ提供時に乳製品を多く取り入れています。運動に関しては、体操や散歩を取り入れています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日中ではありますが、その都度ご利用者様の意向や状況をふまえ、入浴時間を柔軟に設定しています。又、季節行事の中で柚子湯や菖蒲湯も取り入れています。普段は入浴剤も使用しています。	バイタルチェックにより入浴可否を見極め、週3回を目途に昼間の入浴を支援しているが、汚染時にはその都度の支援により清潔保持に努めている。入浴拒否に時間をずらし再度声かける等試行錯誤したケースもある。ゆずや菖蒲等まんべんなく楽しめるようにと数日間支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日のご利用者様の決定にて入眠を促したり、その日眠くない時は一緒に話しながらテレビを見たりし、落ち着かれるまで一緒に過ごしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルに服薬リストを綴じており、薬の服薬目的や副作用について各スタッフが理解出来る様に工夫しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後の食器拭き等、ご利用者様自身の活動に対し対応しています。又、コミュニケーションの中から、ご利用者様の意向も取り入れながら、楽しみや気分転換の時間を設けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望時や気分転換を目的とし、施設周辺を付き添い散歩をおこなったり、全体での気分転換はベランダにておやつを食べたり、ご利用者様の友人の方が気分転換に外出や外泊等の協力もして頂いています。	2階での生活が中心であり、気分転換にベランダでの外気浴や日常的な散歩の他、地域の人に交わって桜を見たり(近くの公園)と近隣住民との交流となっている。外出や外食など友人、家族の協力も得ている。	「植木市に出かけたい」との希望も出されており、今後も外出の機会が増えるであろうと期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人での金銭管理は困難な方ばかりなので、施設管理を希望された方のみ対応しており、日用品以外の園外行事やその他で金銭が必要な場合は使用前にご家族に伺っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望により、家族に連絡出来る様、対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは天井が高いため圧迫感がなく、ベランダは南向きで開放感があります。近くには小学校もあり、元気な子ども達の声が聞こえる環境です。施設の畑もあり、畑作業が好きな方は水やりや草取り、収穫の作業をされています。	壁面を利用した写真の掲示時により食レクの様子や書等入居者の日常を垣間見ることのできる環境にあり、温湿度管理が徹底したりビングである。手作り脳トレや風船バレー等の音も心地よく、職員同士話し合いを重ねたレイアウトにより、落ち着いた生活を支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内には約3か所にソファを設置しベランダにはベンチを置いて好きな場所が利用出来る様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファ、タンス、写真等自宅にあったなじみの物を自由に持ち込んで安心出来る環境の整備をして頂いている。	入口に暖簾をかけ、ベッド上の布団を片付ける等モーニングケアを徹底して居室である。地震により筆筒の向きを検討した居室には、馴染みの物品(ラジカセ、写真、机、ソファ等)が持ち込まれ、クローゼットにより整理整頓が行き届いた環境である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各トイレ、通路、浴室等に手すりを設置し、すべてバリアフリーになっています。		